

2023年度  
自己点検・評価報告書

学東アカデミー

日本語教育機関の告示基準（法務省出入国在留管理庁、平成28年7月22日策定、平成30年7月26日一部改定、令和元年8月1日一部改定、令和2年4月23日一部改定）

第一条第一項第十八条 に従い、当校に関する自己点検・評価を行い、報告書を作成する。

I. 点検評価項目

評価方法

- ・A：「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B：「一部未達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が可能な項目。
- ・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。

1. 教育理念・目標

1.1	教育理念・目標	<p>理念：進学のための日本語を教えるだけでなく、身につけた日本語を運用し、学生自ら目標の達成を目指します。そして、将来二つ以上の言語を使って活躍できる人材育成を目指し、国際社会の貢献に寄与します。</p> <p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一流大学の進学を目指します（東京大学、早稲田大学、慶応義塾大学等）。</li> <li>2. 学力が十分な学生に対して、大学及び大学院合格に必要な準備時間の短縮を目指し教育を行います。</li> <li>3. 留学生が大学及び大学院進学後も講義についていけるような読解力や文章力の教育も行います。また、進学先では、日本人との交流が積極的に行え、日本語でのコミュニケーション能力の向上を目指し教育を行います。</li> <li>4. 日本での留学生生活を通じて、日本文化と異文化を体験するとともに日本人の習慣・考え方の違いを知り、日本人の立場から物事を考えられる国際人を養成します。</li> </ol>
-----	---------	--

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
1.2	教育理念、目的、目標、育成する人物像が社会のニーズに合致している。	A <b>B</b> C	適正校であると認められていないため、一流大学を目指す学生募集は厳しい状況である。	募集時の状況による。	まず進学などの実績を積むことが必要であると考ええる。	
1.3	教育理念、目標に基づいて教育が行われている。	A <b>B</b> C	今年度入学した学生に対して、目標に基づいて教育が行われている。	レベルを達成している。		

総括	課題及び改善内容
	<p>教育目標を達成するために、コース別カリキュラムを作成し、それに従って現在まで教育を行ってきた。また、当校を卒業してそれぞれの進学先またその就職先で必要となるのは、日本を知り、日本語を手段としてコミュニケーションをとることができる能力を身に付けることが必要であると考えている。最近新しいAIが開発され、自分自身の能力以上のことはできるようになった。しかし、本当のコミュニケーションとは何かと考えれず自分自身で相手に伝える能力を養うことだと考えている。この能力を身に付けることができるようにすることをこれから教育を行っていきたい。しかし、現段階はその途中であるため、評価はBとした。</p>

2. 学校運営

点検・評価項目		評価	ア.現状認識	イ.アの根拠	ウ.解決方法	エ. 参考資料
2.1	日本語教育機関の告示基準に適合している。	Ⓐ B C	適合している。			
2.2	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	Ⓐ B C	周知している。	開校前から設置代表者から教職員に伝えている。		
2.3	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営が行われている。	Ⓐ B C	行われている。			
2.4	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	A Ⓑ C	教職員の間で情報を共有している。			
2.5	予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確である。	A Ⓑ C	行われている。			
2.6	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがある。	A Ⓑ C	適宜に情報収集を行っている。	専門学校・大学の留学生担当者 と情報交換を行う。		
2.7	教育内容を含む最新、かつ、正確な学校情報を開示していて、入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	Ⓐ B C	学生の母語で作成し、説明できる職員を配置している。			
2.8	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	Ⓐ B C	開校時より教育と事務が一体となり、対応している。		事務担当は留学経験者であり、心理カウンセラーを有する者を置く。	
2.9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。	A Ⓑ C	開校して2年目であるが、現在は学生数も少ないが、学生が増えてきたら見直しが必要である。			
2.10	校長、主任教員による、教員、事務職員の統括ができています。	Ⓐ B C	現在まで職員一致の下で、行っている。	毎日連絡及び伝達を行う。		

総括	課題及び改善内容
	<p>昨年開校時より現在まで、学校運営については事務、教務一体となって取りくんできた。</p> <p>2-1：告示基準に適合している。</p> <p>2-2.3.5：経営目標については明確化されている。来年度以降は募集活動を円滑に行い、目標の達成を目指す。</p>

### 3. 教育活動の計画

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
3.1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	Ⓐ B C	留学2年、1年半コースを設置している。			
3.2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	Ⓐ B C	編成している。	毎月、授業計画を作成している。		
3.3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	Ⓐ B C	設定している。	月テスト、学期末校内模試を実施し、レベルを判定する。		
3.4	教育目標に合致した教材を選定している。	Ⓐ B C	選定している。	JLPTに合格できるような教材を選定している。		
3.5	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。注：教材等の著作物（電子媒体を含む）の複製について著作権法上の制限事項・禁止事項を教員及び学生に伝えなければならない。	Ⓐ B C	留意している。	教材は一括購入している。		
3.6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	A Ⓑ C	教育方法については難しい面もある。	それぞれの教育機関での教育方法の相違による。		
3.7	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	Ⓐ B C	配置している。			
3.8	体験を生かした学習、学生の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習など、学生の主観面へのアプローチを取り入れた授業運営ができています。	A Ⓑ C	現在の状況は自発的な学習から行われている状況に至っていない。	学生はJLPT合格を目指している。	学生との面談を通して学生の最終目標を考えていく。	

総括	課題及び改善内容
	<p>3-1～4：学東アカデミーでは学校の授業だけでJLPT、EJUに対応できるカリキュラムを組んでいる。従って、それを達成するための教材を選定している。初級の段階から技能を身につけるとともに、日本人と交流するためのコミュニケーション能力を養う。これによって、進学あるいは就職した後も対応できるようにしている。</p> <p>3-5：著作権の制限事項を把握し教材を配布している。</p> <p>3-6：学生の目標を達成できるように効果的な教育方法を取る。</p> <p>3-8：現段階では相手の話を聞き、それに対して自分自身の意見・考えを相手に伝えることができる段階と考える。今後はグループワークなどを取り入れていく。</p>

4. 教育活動の実施

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
4.1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	JLPTの結果		
4.2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。	Ⓐ B C	伝達している。			
4.3	開示されたシラバスによって授業を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	今年度は入学から対面授業が行うことができたので、予定通りに進む。		
4.4	授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している。	Ⓐ B C	記録している。			
4.5	期間ごとの各課程の到達目標が達成できている。	Ⓐ B C	達成できている。	毎月、月テストを行い、JLPTの模擬テストを実施し、到達度をみる。		
4.6	体験活動、行事などの実施・管理体制ができています。	A Ⓑ C	学年末に行う。	JLPTなど終わった後、消防体験などを行う。		
4.7	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	家庭学習などの方法についてアドバイスを与える。	留学経験担当を配置している。	
4.8	特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。	A Ⓑ C	現在の状況において必要ないと考える。	経費支弁など問題ない学生である。		

総括	課題及び改善内容
	<p>4-3.4：シラバス、カリキュラムに従って授業を行っている。授業記録は毎日、記録している。</p> <p>4-5：現段階では達成できている。アルバイトもしていないので、日本人との交流は学校以外はないため、どのようにコミュニケーションを取ればよいかを授業中で伝える。</p> <p>4-7.8：進路指導、学習指導、生活指導、それぞれ教務と事務が協力して行っているが、今後も連携して指導にあたる。また、心理カウンセラーの資格を有する職員を配置しているが、専門のカウンセラーも必要かと考える。</p>

## 5. 成績判定と授業評価

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
5.1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。また判定基準と方法を開示している。	Ⓐ B C	行ってきた。		今後も学期末試験、復習テストを行う。	
5.2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	Ⓐ B C	伝えている。			
5.3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	A Ⓑ C	これから検証していく。	今年3月に初めて2年コースが終了するので、カリキュラム合わせて検証する。		
5.4	授業評価を定期的実施している。	A Ⓑ C	実施している。	学生から要望を聞く。		
5.5	評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。	A Ⓑ C	適切であると思う。	今年3月に初めて2年コースが終了するので、今後検討する。		
5.6	学生による授業評価を定期的実施している。	A Ⓑ C	今年度末に実施する。	4月期生が入学して1年経過する。	授業を見学する。	
5.7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	A Ⓑ C	これから検討していく。	今年3月に初めて2年コースが終了するので、学生の成績と合わせて検討する。	勉強会に参加する。	

総括	課題及び改善内容
	<p>JLPTに合格者を出すには教員の指導力が重要であると考え。当校では教育理念・目標にも掲げるように日本語能力だけでなく、日本人とコミュニケーションが取れるようにすることも重要であると考え。したがって、決められたコース期間内で、これらの能力を身につけることができるように効果的な教育を行うことができる教員の養成が必要であると考え。そのためには、それぞれの教育機関で養ってきた知識に囚われることなく、学生の成績向上のための指導法を検討する必要がある。</p>

6. 教育活動を担う教職員

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
6.1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	A B C	定めている。			
6.2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	A B C	明示している。			
6.3	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している。	A B C	している。			
6.4	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止限を明確に定めている。	A B C	定めている。			
6.5	教員及び職員の評価を適切に行っている。	A B C	今年2年目で2年コースが終了するので、その際に行う。		2年コースが終了した段階で最終評価を出す。	

総括	課題及び改善内容
	<p>6-4：現段階では特に問題はない。しかし、今後、学生が増加していくため、異文化への理解・言動について、問題になる点など教職員で話し合い明確に定めていく。</p> <p>6-5：教職員の評価は学生からの声が最も判断しやすいと考えるが、現在学生の中には明確な評価をつけることを拒む学生もいるため、難しい面もある。したがって、各教室にカメラを設置し、クラス活動が見えるようにしている。</p>

## 7. 教育成果

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
7.1	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理している。	A(B)C	管理・保管している。	学生一人一人のファイルを作成し記録している。		
7.2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	A B(C)	今年度最初の卒業生を送り出す。	開校2年目の途中である。		
7.3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	(A)B C	把握している。	結果のコピーを保管している。		
7.4	卒業または修了後の進路を把握している。	A(B)C	把握している。	昨年度、1年で志望校に進学した学生については入学許可証をコピーし保管している。また進学先からも現在の状況の報告を受ける。		
7.5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	A(B)C	把握している。	今年度進学した学校から指定校としての認定を受けている。	卒業生を送り出した際には、進学先、就職先それぞれの担当者から状況を聞く。	

総括	課題及び改善内容
	<p>7-2：今年度最初の卒業生を送り出すが、期末テスト・模擬テストの結果を記録している。</p> <p>7-3：当校としては昨年12月のJLPTが第1回目であり、今年度も引き続き結果を把握している。これを基に進路指導を行う。</p> <p>7-4.5：まだ進学した学生はいないが、学生が進学した場合は記録を残し、進学後も進学生の留学生担当者に連絡を取り、学習状況など把握していく。</p>



## 8. 学生支援

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
8.1	学生支援計画を策定し、支援態勢を整備している。	A <input checked="" type="radio"/> B C	整備している。	入学前に日本での生活を説明し入国後も住居・各役所届出などについて説明する。		
8.2	学生の心身、健康管理等のサポート体制が整備されている。	<input checked="" type="radio"/> A B C	整備している。	昨年度も入国後健康診断を行う。		
8.3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている。	A <input checked="" type="radio"/> B C	授業の中でも日本で生活するための規則など自国と比較しながら理解を深める。			消防署での防災体験 今後学生が増えた場合、警視庁安全課の方を招き、日本での規則を説明していただく。
8.4	留学生活に関するオリエンテーションを学期始、学期末に実施し、また毎月学生調査を行い、在籍者全員の所在と生活状況を把握している。	<input checked="" type="radio"/> A B C	把握している。			
8.5	住居及び生活環境への支援を行っている。	<input checked="" type="radio"/> A B C	行っている。	アルバイトの紹介などを行う。		
8.6	母国の保護者（支弁者）と適切に連携している。	<input checked="" type="radio"/> A B C	連携している。	病気・成績・出席不振の際、連絡している。		
8.7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている。	<input checked="" type="radio"/> A B C	整えている。	季節の変わり目など体調管理について話をする。		
8.8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入している。	A <input checked="" type="radio"/> B C	国民健康保険は加入している。留学生保険には未加入である。	入学時に職員が区役に同行し、加入する。在留資格更新時に新しい保険証を確認する。		
8.9	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。	<input checked="" type="radio"/> A B C	定めている。			

8.10	交通事故等の相談態勢を整備している。	A B C	整備している。		
8.11	危機管理体制を整備している。	A B C	整備している。		
8.12	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的に行っている。防火管理責任者を配している。	A B C	実施している。	昨年度は防災訓練を行った。	
8.13	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知している。	A B C	周知している。	地震の台風の際の諸注意を与える。	
8.15	健康診断の予定と実施状況、さらに、診断結果において問題があった学生への対策をとっている。	A B C	実施している。	保健所で検診済み。	
8.16	母国の文化を尊重しつつ、日本の文化を受け入れ、人間形成につながる指導やアドバイスができています。	A B C	できています。	日本と中国だけでなく、出身地によって習慣も違うので、常にその相違点を念頭にアドバイスをしている。特に高卒の学生は年齢差もあるので、指導については難しい面もある。	

総括	課題及び改善内容
	<p>8-1.2.3.4.5:昨年と同様、事務担当・生活指導担当と相談し、受け入れ態勢を整えてきた。これからも継続して行き、当校在学中の安全を図る。</p> <p>8-7.8.9: コロナ禍は終息してはいるが、現在も学生自身も感染症などには十分注意している。</p> <p>8-10: 交通事故・病気に対する相談体制は事務担当に通訳を依頼する。事故の保障については、今後学校で相談する課題である。</p> <p>8-11.12.13:危機管理体制については、学校で連絡網を作成してあるので、それに従って行う。年に一回の防災評訓で地震体験・消防訓練を行う。</p> <p>8-15:区の保健所で年に一回、健康診断を行う。昨年度と今年度は問題無とのことであったが、問題があった場合、保健所と連携して対応する。</p> <p>8-16:授業の中でも、それぞれの出身地の伝統行事・習慣などについて話し合いをしている。同じ国でも相違点があること発見し、お互いに理解を深める。これは日本の文化を知る上で重要なことだと思う。</p>

9. 進路に関する支援

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
9.1	進路指導担当者を特定している。	Ⓐ B C	特定している。	担当教員を配置している。	来年度以降も継続して行う。	
9.2	学生の希望する進路を把握している。	Ⓐ B C	把握している。	当校入学前の面接でも進路・将来の希望を聞く。	入学後のオリエンテーション・学期末にも面談で聞く。	
9.3	進学に関する最新の資料を備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	Ⓐ B C	備えている。	送付されるパンフレットまた専門学校・大学の留学生担当者と学校内で面談を行う。		
9.4	入学時から一貫した進路指導を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	オリエンテーションの際、再度確認する。	昨年度は開校一年目であったが、進学希望者はそれぞれ希望する専門学校・大学院に入学した。	
9.5	進路指導を適切に行っている。	Ⓐ B C	行っている。	常に学生と対話しながら、悩みを聞き、相談に乗り、アドバイスをする。今後も継続する。		
9.6	進路相談の手順、方法が明確になっている。	Ⓐ B C	明確になっている。			
9.7	学校として組織的に進路指導に取り組む体制ができている。	Ⓐ B C	できている。	JLPT・EJU対策、その結果を見て志望校など決める。その後志望理由・面接練習など行う。		
9.8	教育機関、進学先との連携・協力ができている。	Ⓐ B C	一部の専門学校できている。	大学とは学校訪問。	これからさらに開拓する必要がある。	

総括	課題及び改善内容
	<p>9-1.2：進路指導については学生自身も進路説明会に参加し、体験授業にも参加し、学生自身で情報を得る。</p> <p>9.3-7：その結果を学校に持ち帰り、進路担当教員・教務主任と相談し、最終決定ができるようにする。さらに願書の書き方・面接の指導も行う。</p> <p>9-8：進学先の連携はさらに学校訪問などをして連携できるようにしていく。進路指導については、前年度に引き続き入学前の面接から進路希望の把握に努めてきた。来年度以降もJLPT・EJUで良い結果が出せるように授業を進めて、希望する志望校に進学できるようにする。</p>

10. 入国・在留に関する指導及び支援

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
10.1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	Ⓐ B C	定めている。	事務担当を特定している。		在留資格取次申請業務にかかわる研修会への出席
10.2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている。	A Ⓑ C	行っている。	在留資格交付状況などの情報を得る。		
10.3	出入国在留管理庁により認められた申請等取次者を配置している。	Ⓐ B C	配置している。			
10.4	出席状況の管理とフォロー体制が適切である。	A Ⓑ C	適切に行っている。	欠席・遅刻の場合は学生に連絡をする。		
10.5	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	Ⓐ B C	行っている。	入学前の面接の段階から説明会を行う。入学時のオリエンテーション、学期末の際も行う。		
10.6	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	Ⓐ B C	把握している。			
10.7	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	学業不振の学生に対して、面談を通して指導する。		
10.8	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等が発生させないための取組みを継続的に行っている。	A Ⓑ C	現段階ではこれに該当する者はいない。	在留資格の更新	入学時に在学中の支弁能力を有する者を募集する。	

総括	課題及び改善内容
	今年度は、募集担当を常駐し、募集活動を行っている。しかし、募集活動は厳しいため、他の国からも募集予定である。資格外活動・不法残留者を出さないために、現在より厳しい指導が必要であると考えている。

11. 教育環境

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
11.1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。	Ⓐ B C A	十分な照度がある。各教室には窓・換気扇も備えているので、十分な換気もできる。			
11.2	授業時間外に自習できる部屋を確保している。	Ⓐ B C	確保している。			
11.3	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備し、常時利用可能である。	A Ⓑ C	メディアに関してはこれから設置する予定である。			
11.4	視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	A B Ⓒ	現段階ではオンライン授業に対応できる設備の設置のみである。			
11.5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	Ⓐ B C	確保している。			
11.6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。	Ⓐ B C	設置している。			
11.7	法令上必要な設備等を備えている。	Ⓐ B C	備えている。			
11.8	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。	Ⓐ B C	問題ない。			
11.9	施設、設備の定期的な安全点検が行われている。	Ⓐ B C	行われている。			
11.10	学校の衛生管理を行っている。	Ⓐ B C	行っている。			

総括	課題及び改善内容
	ITを利用した授業も、これから取り入れていきたいと考えている。同時に日本語で相手に説明する力を養うことも重要だと考える。

12. 入学者の募集と選考

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
12.1	入学者の募集活動が告示基準に沿って適切に行われている。	Ⓐ B C	行われている。			
12.2	理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。	A B Ⓒ	策定している。			
12.3	機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。	Ⓐ B C	今年度は現地の高校でも説明会を行う。他にも個人で応募があった場合も同様に説明を行う。			
12.4	教育内容、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	Ⓐ B C	開示されている。			
12.5	海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握している。	Ⓒ A B C	把握している。	募集担当者がエージェントに学校の方針など説明している。		
12.6	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	A Ⓒ B C	把握している。	募集担当が常駐している。		
12.7	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	A Ⓒ B C	確認している。	今年度は来年入学する学生の募集を中国以外からも行った。オンラインではあるが面接を行った。もし入学した場合、生活指導担当者とも連携して不法残留発生を防ぐ。		
12.8	入学志願者の学習能力、勉強意欲、日本語能力、経費支弁能力等を根拠資料で確認する等、適切な方法によって確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。	A Ⓒ B C	確認している。	これからも継続していく。		
12.9	選考料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	Ⓐ B C	明示されている。			募集要項に明記
12.10	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。	Ⓐ B C	公開されている。			募集要項に明記
12.11	入学者の募集について、今後の見通しが安定している。	A Ⓒ B C	現段階では厳しい状況である。	不法残留・資格外活動など発生させないことを重視している。		

総括	課題及び改善内容
	今年度は中国国内に事務所を設置し、日本語の授業も行い、学習意欲また支弁能力を有する学生を選抜してきた。しかし、中国国内からの募集は厳しく、限られた人数しか募集できない。そのため、中国以外の国からも募集を試みた。面接は行い、日本語能力・留学目的が明確な学生、さらに支弁能力がある学生を選抜した。もし入国した場合、生活指導を徹底して行う。

13. 財務

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
13.1	財務状況は、中長期的に安定している。	Ⓐ B C	安定している。			
13.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	Ⓐ B C	保たれている。			
13.3	適正な会計処理、監査が実施されている。	Ⓐ B C	実施している。			
13.4	設置母体と学校の経営が、明確に区分されている。	Ⓐ B C	区分されている。			

総括	課題及び改善内容
	現在の財務状況は安定している。しかし、現在の学生募集では厳しくなると考え、来年度は中国以外の国からも募集をする。ただし、信頼できるエージェントを通して募集活動を行う予定である。

14. 法令遵守

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
14.1	法令遵守に関する担当者を特定している。	A Ⓑ C	特定している。			
14.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている。	A Ⓑ C	行っている。			
14.3	個人情報保護のための対策をとっている。	Ⓐ B C	取っている。			
14.4	出入国在留管理庁、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。	A Ⓑ C	遅滞がないように努めている。			

総括	課題及び改善内容
	開校時より現在まで関係省庁への報告は、遅滞なく行うように努めている。 14.1：開校時は教務と事務が一致協力して行ってきた。今年度は社内移動もあったが、今年度は担当者を特定した。 14.4：今後社内移動があった場合、しっかり引継ぎを行う遅滞がないように努める。

15. 地域貢献・社会貢献

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
15.1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	Ⓐ B C	昨年開校以来、地元の町内会に入り、今年はコロナ禍が明けたのでお祭りに参加した。			
15.2	学生ボランティア活動への支援を行っている。	A Ⓑ C	行っていない。		学生が増えてきたら、様々なボランティア活動に参加し、日本人との交流も体験していきたい。	
15.3	日本語学校について地域住民の方々に理解を促す働きかけができています。	Ⓐ B C	町内会に入る際に町内会の方々にどのような学校かを説明した理解をいただいている。		学生にも挨拶などきちんとするようにオリエンテーションで説明している。	
15.4	地域の文化施設や自然、伝統行事等を学生指導に取り込み、活用できている。	Ⓐ B C	15.1に参照			

総括	課題及び改善内容
	学校の周辺は静かで環境も良い。現在在籍している学生は、アルバイトもしていないため、日本人との交流は非常に少ない。したがって、学生たちには常に日本語の習得だけでなく、日本で生活するために、どのようにコミュニケーションを取ればよいかについても伝えている。周辺の住民にも「日本語学校」という存在を理解してもらうように、これからも教職員、学生共に交流を深めていきたい。これは学東アカデミーが掲げる教育目標、教育理念に通じるものである。

16. 学校情報の公開

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
16.1	ホームページ等での学校情報を適正に公表している。	A Ⓑ C	昨年開校一年目で初めて公表した。			
16.2	法令上、または社会通念上、適切な情報を公開している。	A Ⓑ C				
16.3	入学希望者への誇大な表現、不適切な表現などが無い。	Ⓐ B C	適切な表現をしている。		今後も適切な表現で学校を運営していく。	

総括	課題及び改善内容



昨年度はコロナに感染する学生もいたため、課外授業を行うことが出来なかった。今年度は入学時にお花見にも出かけたが、引き続き課外授業を通して、一般的に知られている文化だけでなく、違う面から日本の良い点・悪い点を学生と考えていきたい。

## II. 総合評価と改善計画総合評価

### 【達成状況】

令和4年度4月開校し、今年度で2年目を迎える。コロナ禍の中での募集活動であったため、なかなか難しかったが、何とか開校することができた。全員対面で授業できるまでに2ヶ月半かかったが、カリキュラム通りに授業を進めた。この中で何人かは進学を希望し、1年の在学はあったが、希望する専門学校・大学院に進学した。コロナ感染により、日本での生活を諦めて帰国した学生もいたが、今年3月で2年コースが終了する。日本語の到達度としては、今年度入学した学生も7月にJLPT N3に合格し、12月にN2を受験し、結果を待っている。今年度1年目としては順調に進んでいると思う。

### 【課題・改善計画等】

今後の課題：

- ①安定した募集活動を行っていくために、中国国内の高校及び大学と連携することが安定した経営につながるという考えは変わっていない。既に高校とは連携しているが、まだ学生の年齢が留学できるに至っていなかったが、来年10月の募集から申請を目指す。
- ②カリキュラムは2年、1年半コースを設定している。学東アカデミーはJLPT及びEJUで高得点を目指しているが、将来進学した際に困らないように技能はもちろん、コミュニケーション能力の必要性も考えて、シラバスを組んでいる。何とか相手に日本語で伝えようとする力は備えつつある。今後はさらに発表する力をつけたいと思う。

改善計画：

- ①上記の課題を達成するために、さらに教務と事務の連携を深めて、学生管理などに問題があれば協力して指導にあたる。
- ②来年度は中国以外の学生も受け入れ予定であるが、2年コースまたは1年半コースの短期間で学生が希望する進学先に合格できるように短期間で学習効果を上げるようにすることが必要である。

## III. 実施時期

年1回 毎年2月実施

## IV. 実施体制

実施統括責任者：校長

実施担当者：教務主任・在留事務担当・生活指導担当・学生募集担当・経理担当

## V. 実施体制概要

- ①実施月それぞれ1か月前に校長が実施についての指示を出す。
- ②それぞれ実施担当が、計画通り自己点検を実施。
- ③結果を集計し、共有する。
- ④全体会議にて、結果を検討し、改善案をまとめる。
- ⑤会議で決定した改善案を学校の運営、教育に反映させるため、関係各部署にて協議し、具体策を校長に報告する。
- ⑥校長は設置者に自己点検・自己評価について報告する。
- ⑦設置者は結果を翌年度の運営方針に反映させる。

## VI. 第三者評価の実施

校内で自己点検及び評価を実施するとともに、第三者機関（日本教育振興協会等）による第三者評価を受けるべく努める。

## VII. 公表方法

評価の結果は、当校ホームページに公表する。